

会 議 録

会議の名称	第7回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	平成30年10月17日（水） 午前10時から12時10分
開催場所	中央図書館会議室
出席者	<p>【委員】松尾委員、島委員、西村委員、山口委員、鈴木委員、藤澤委員、武田委員、上田委員、攝賀委員、松嶋委員、中川委員（館長）、司城委員（副館長）</p> <p>【事務局】奈良庶務係長、西村ひばりが丘図書館地域館長</p>
傍聴人	なし
議 題	<p>第1 図書館計画（案）について</p> <p>第2 その他</p>
会議資料の名称	<p>配布資料</p> <p>資料1 （仮）西東京市図書館計画(案)</p> <p>資料2 図書館計画（2019～2023年度）の体系(案)</p> <p>委員提出資料</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p><u>第1 図書館の計画（案）について</u></p> <p>○館長 今後の予定について、素案を11月16日の教育委員会にて報告。議会終了後に首脳部会議にかけ、パブリックコメントを行う予定。その後、事務局で意見をとりまとめて第9回1月30日の策定懇談会へ報告。修正をして完成の予定。</p> <p>○座長 ではまず、目次の「はじめに」について、少子高齢化は、少子高齢社会もしくは超高齢社会とし、高度情報化は高度情報通信ネットワーク社会とした方がいいのではないかと。また、「基本計画・展望計画が計画期間終了」を「展望計画の計画期間が終了」とする。</p> <p>○委員 文章に「取組み」という文言が多いのが気になる。 「時代のニーズに応えるサービスの取組みを図る」は「サービスの実現」とする。「長期的な展望と継続的な安定性を持った図書館運営」は、「長期的な展望を持ち、継続的に安定した図書館運営」。「様々な事業に取り組んできました」は、様々な事業を行ってきました」とする。</p> <p>○委員 「対象別の各サービスの取組みをはじめ」は、「各サービスをはじめ」とする。</p> <p>○座長 では、目次の「1計画の概要」の「1計画の位置づけ」について、「西東京市第2次総合計画後期基本計画」は、「西東京市第2次総合計画（後期基本計画）」。「これからの図書館を推進」は、「これからの図書館活動を推進」へ。「西東京市第2次総合計画後期基本計画」および「西東京市教育計画」は今検討中のもので、まだ決定されていない計画だと思うが、このように書いてしまっているのか。</p> <p>○館長 「西東京市第2次総合計画（後期基本計画）」と「西東京市教育計画」は「図書館計画」とあわせて今年度末には策定されるもの。</p> <p>○座長 つぎの「2 計画期間」について、どうか。</p> <p>○館長 「公共施設マネジメント総合計画」をこの図に追記する。</p> <p>○委員 「図書館計画」が一番重要なので、太枠にするなど強調した方がいい。</p> <p>○座長 「これまでの取組みと課題」についてはどうか。</p>	

- 副座長 事業・職員組織・施設計画と3つに分かれているが、わかりにくいので図で示せないか。職員組織計画は、人事計画と研修計画があると書いてあるが分かれていなかったり、構成が統一されていない。
- 委員 「基本計画・展望計画」に基づいてとあるが、協議会の評価のみでなく、アンケートや意識調査の内容も反映させた方がよい。「アンケート等に見る図書館への評価」を囲みにしているのには違和感がある。
- 座長 アンケートについては、もう少し違う形で反映させる。
- 委員 基本方針の「これまでの取組みと課題を踏まえて」とあるが、もっと具体的にどんな課題があって基本方針を考えたかを示し、前段の取組みと課題と、基本方針との関連性を持たせたほうがいい。
- 副座長 資料計画の取組みと課題では視聴覚資料のことには触れていないが、「アンケートの評価」の中ではCDについての要望が含まれている。
- 座長 資料計画の取組みに、視聴覚資料を追加したらどうか。
- 副座長 サービス計画には、各サービスの小見出しがあるが、資料計画には小見出しがないので統一した方がわかりやすい。
- 委員 「西東京市図書館資料収集基準」については、資料を添付してほしい。
- 館長 最後に添付資料としてつける予定。
- 委員 前回、「発達段階」という文言を変更したが反映されていない箇所がある。「サービス計画の取組みと課題」の「児童・青少年サービス」で、「発達段階」を、「成長過程」に変更。
- 委員 2ページの児童書について、「アジア圏の言語の市民」は、「アジア圏の言語を母語とする市民」とする。また、レファレンス資料という名称が一般市民にわかりにくい。後述では参考図書という表現もしているので、説明を加えたりして統一性を持たせてわかりやすくする。「新刊案内の件数の大幅増加」は、「新着資料の案内を大幅に増やした」へ。「レファレンスニーズ」は、「情報のニーズ」もしくは「ニーズ」のみに変更。「レファレンス紙資料」は、「紙媒体」もしくは「冊子体のレファレンス資料」へ。「利用者には資料が探しにくく」は、「資料が探しにくく」とする。
- 委員 児童書について、「蔵書回転率（貸出冊数÷蔵書冊数）をもう少しあげる努力」は、「蔵書回転率をあげていく努力」とする。
- 委員 回転率は、具体的な数値がないとわからない。
- 委員 回転率など、何%あげるかといった具体的な数値がないと計画には結びつかない。
- 副座長 資料計画の中のレファレンス資料について、「参考図書配置の見直し」「図書館資料の出会いを演出する工夫」は、資料の取組みと課題ではない。
- 委員 全体的に抽象的で具体的なバックデータがないので、何が評価されたのかわかりにくい。
- 座長 「基本計画・展望計画」には図や表があるので、それを参考にしたらどうか。ページは増えてしまうが、わかりやすく示した方がいい。
- 委員 評価の部分「協議会」の言葉が多すぎる。
- 委員 いちいち「協議会から」といわなくてもいいのでないか。
- 副座長 各項目を「取組み」もしくは「現状」と「課題」に分けてまとめた方がわかりやすい。
- 委員 「YA」とするのか、「青年期」とするのか文言を統一する。
- 委員 蔵書回転率が問題なのではなく貸出が増えることが課題なので、それがわかればいいのではないか。
- 委員 蔵書回転率を入れずに、貸出をあげるとしたらいいのではないか。
- 委員 外国語資料が必要な人に届くことが大事なので、そのための広報を工夫するということが言いたいことなので、蔵書回転率はいらない。
- 委員 蔵書回転率を上げるのではなく、広報を工夫するというのが課題という表現にする。
- 副座長 職員組織計画は、人事計画と研修計画があるが、分かれていないし、取組みと課題もまとめて書かれていて分かれていない。もし分けないのであれば、説明が必要。
- 委員 取組みと課題は「基本計画・展望計画」に基づいて示してきたが、今回の図書館計画の中の事業計画は前回とサービスの視点が違うので、今回はどのような視点で基本方針を考えたかという説明が必要。
- 委員 職員組織計画の取組みと課題では、職員数の推移の表があるが、何が言いたいのか。
- 副座長 効率的効果的な運営を行ってきたということが言いたいのだと思う。
- 委員 職員数の表の前の説明文で、「平成20年度から30年度の職員数」とあるが、年度が飛んでいる

ので表としては違和感がある。「職員数の推移は次のとおりです」のみでいい。

- 委員 取組みに対してこの職員数でやってきたという意図は、この表では伝わらない。
- 座長 効率化の努力が文字で説明できれば、表はいらない。
- 副座長 「滞在型を志向する中央図書館」とあるが、「滞在型」という言葉は市民にはわかりにくい。図書館でゆっくり調べ物をしたり、本に触れたりする時間を求めている市民が増えているからこそ、イスや机が必要ということ強く出していく必要がある。
- 座長 滞在型は、図書館用語として定着しているのかどうか。
- 委員 図書館としては使うが定義ははっきりしてないので、市民が読んだ時にどう伝わるか。
- 副座長 ゆっくり本を読んだりする市民が増えているからこそ、今の施設では足りないということ。もうひとつ強調したいのは、蔵書の収容能力が現状では低いということ。地域館からのリクエストに応えられないとか、市民のリクエストにも都立図書館からの借用に頼るということになっているので、中央図書館としての収容能力の必要性をもっと強調して示した方がいい。
- 委員 この部分こそ、アンケートで改善を望む意見の出るところだと思う。席が少なすぎて、ゆっくり本を読みたいと思ってもできないし、本を広げてみるようなスペースもない。
- 委員 滞在型を志向するとあるが、志向する方針が出されているのであればそのことを示した方がいい。貸出中心だった考え方を、新聞を読んだり調べ物をしたりできるような施設を作りたいということ。改修計画の取組みの中で出てきた課題だという経緯をわかるように書いた方がいい。中長期計画の展望につながる内容だと思う。
- 副座長 ここは課題を書くところなので、課題としては収容能力が低いことであり、滞在型についての話はここではなく、中長期的な展望のところに持っていった方がいい。
- 委員 図書館の床面積について、「26市中最低のため」とあるが、「下位であり」でいい。また、中央館と地域館の役割として「地域館は中央図書館を補完する機能」とあるが、一般的には中央図書館が地域館を補完する。西東京市図書館としての現状を書いてあるのか、どちらの視点での内容かわかりにくい。
- 委員 ハンディキャップサービスなど、中央館でできないので地域館を拠点にしているという意味での補完と捉えたが、確かにわかりにくい。
- 館長 部分的なところでは中央図書館を補完する機能もあるが、レファレンスサービスや地域行政サービスは中央図書館が拠点になっている。この部分表現があいまいなので見直す。
- 座長 中央館とあるが、一般論としてあえて中央図書館とは区別してのことか。具体的に西東京市のことをいいたいのであれば、中央図書館とした方がわかりやすい。
- 委員 「いつでも・どこでも・だれでも利用できる環境づくりを進めてきた」とあるが、これは理想であり今現在実現可能な内容ではないので、「環境づくりをめざしています」くらいのほうがいい。
- 座長 その他の課題について、「利用の少ない中高生世代や青年層」とあるが、アンケートの内容と矛盾している。アンケートでは30歳未満の利用が76.6%と高い数字である。
- 委員 ここで言いたいのは、小学生の時は利用していたが中高生になって利用が少なくなってきたということではないかと思うが表現があいまいである。
- 館長 アンケート上では、図書館に来たかどうかであって、利用していない人も含んでいる。
- 委員 図書館へ来ただけでも利用していることになると思う。保谷駅前図書館の学習室は、並んででも利用をする。学習室の利用の合間に本を見たり、インターネットを利用したりもしているので、本を借りなくても利用者と考えていい。
- 座長 「利用の少ない」の部分削除して文章を整理する。基本的な考え方についてはどうか。
- 委員 事業計画の中の〈具体的な取組み〉の表だが、「実施」や「検討」が多い。表にするなら、もっと具体的に明記した方がいい。
- 副座長 役所の計画書ではよくある表記である。
- 委員 5年間のスケジュールを示した方がいいという意見があったので作成したと思う。表をよく見ると、実際にいつ実施するかを考えて作成していることはわかるので、何年度に実施するということがもう少しわかるようにしたらどうか。
- 委員 実施事業名として「魅力ある書架づくりのためのニーズ、利用状況の把握等」とあるが、実施事業名は「魅力ある書架づくり」で、取組みとして「ニーズ、利用状況の把握等」とするとわかりやすい。また、「基本方針4 未来の担う子どもの読書活動の支援」の説明には、「子どもの知的な好奇心」という内容がほしい。学校図書館の連携の中にマルチメディアデイジーが含まれているが、学校での利用のみではなく個人で利用するものではないか。

- 館長 個人への対応ももちろんあるが、教育指導課から、広く読書活動の一環として学校図書館と協力して取組めるのではないかという意見をもらった。学校の先生からも取り入れたいという意見もあったので、この項目に入れた。
- 委員 学校だけでなく、家族の会などもあると思うので、そのような団体へもつながるような働きかけがあるといい。
- 委員 基本方針6の中の施策の方向性(1)の取組①の表に各年度「参加」とあるが、もっと具体的にどのような研修に参加するのか、どのような庁内研修をするのか示してほしい。
- 副座長 具体的な取組みがあるところはそのまま残し、継続的なものは表をなくして文章のみにする。
- 館長 文章のみで示せる部分は、表ではなく文章のみにして、表にした方がいい項目は表をつけるという形式にして見直しをする。
- 座長 電子書籍の取組みは5年間ずっと「検討」となっているが、検討のみなのか。
- 副座長 社会情勢にあわせての様子見といったところだと思う。情報収集していくということを文章で示したらどうか。イメージとしてはわかるような気がするが、表現としてどうか。
- 委員 「中長期的な図書館展望計画」の(5-1-2)、「余白のある豊かさ」「本のある森を回遊」の意味がよくわからない。
- 委員 この部分の文章だけ文学的で、いままでの文体と違うように感じる。
- 館長 表現を変えて見直しをする。
- 委員 「～と考えます」が随所に出てくるのが気になる。文章の終わり方として不自然。
- 座長 「必要と考えます」は、「必要です」と言い切ってしまったほうがいい。
- 委員 託児室の設置とあるが、部屋だけでなく保育も含めて図書館が対応すると考えるのか。
- 委員 懇談会としては、実現可能かどうかの判断はしなくてもいいのではないかと。将来的な理想として、今後の計画に繋げていければいいと思うので、図書館の意見をなるべく尊重したい。
- 委員 実現可能かどうかではなく、将来的な構想や理想として行政側へのアピールとして考える。構想はどうなっているのか、市にとって役に立つのかといった行政側への説明の際にも示すことができると思う。
- 委員 「施設の配置計画」については、計画の中でここまでいってしまっているのかと思うが、図書館としてこのような展望を持ちたいのならば市民としては歓迎したい。
- 委員 かなり意欲的だと感じる。パブリックコメントの対象となると、色々な意見が出てくると思う。
- 委員 (5-6-2)にある「残存施設」という文言は、表現を変えたほうがいい。中央図書館に機能を集中させたら、今ある駅に近い地域館の位置づけも変わっていくと思うので、どういうものを求めていくかが市民にも問われていると感じた。新町分室を閉室した時に、田無駅近くに中央図書館があるからという説明があった。この展望のようにどこの駅からも近くない場所につくるとしても、近くの図書館で利用したいという市民はたくさんいると思う。
- 委員 総量抑制という観点から書いていると思うが、現中央図書館等は何らかの形で残るかもしれないと読めた方がいいと思う。
- 委員 「中長期的な図書館展望計画」の内容は意欲的だが、パブリックコメントに凶るなら、もっと5年計画に反映できるのではないかとされるのではないかと。
- 事務局(補足) 5年間ではできない内容。耐震計画も決定している。将来的に取組みたいことが何もないと館長も行動をおこせない。この策定懇談会からでた意見を取り上げている。
- 委員 合築の検討の際の反対意見のひとつにあったのは、駅から遠くなるというもの。
- 委員 武蔵野プレイスのように駅近でいい図書館があるのだから、西東京市においても、そうしたいという市民の気持ちも大きいので反対意見が出たと思う。新たに中央図書館の機能を実現させることに意味があるということを言いつつ、駅のそばにはそれなりの規模の図書館を残すという方向性をだすと説明がつくのではないかと。中長期的計画は、5年間の計画とは別だということをもっとはっきりと示せばいい。
- 事務局(補足) 「中長期的な図書館展望計画」とするよりも、「展望に向けて」として夢を持たせた文言にしたらどうか。
- 各委員 その方がいい。
- 委員 「知的情報基盤の整備」と言われているが、よく意味がわからない。
- 座長 本だけでなく、様々な情報を含めて検討していくことだと思う。
- 委員 「中央図書館に求められる機能」の中に、危機管理機能も必要だと思う。防災機能のみでな

く、情報サービスとして、災害時の情報や災害後の情報など、図書館が中心となって情報を提供する機能も必要。

- 委員 私的意見として参考資料を提出した。図書館運営を遂行する上で、利用者である住民に寄り添い愛されることが不可欠。①住民・ボランティアとの協働。②図書館友の会の創設 ③図書館評議会の設置を提案する。図書館評議会は図書館に置くのではなく、市長部局に置いて欲しい。公共図書館は、住民の支持が必要であるが、働きかけが少ないように感じる。図書館の展望に向けて吸収してもらえればと思う。
- 座長 図書館として、参考にしてみよう。
- 座長 図書館として講座を開くことは可能だと思うが、その後の友の会については住民が主体で作っていく。
- 委員 基本理念が長すぎるので、1行で表現した方がいい。
- 委員 基本理念を基に6つの方針があるので、これ以上短くすることはできないのではないか。
- 座長 基本理念の最初と最後をとり、「西東京市図書館は、成長する図書館であり続けます」をキャッチフレーズにし、そのあとに、今ある文章で説明したらどうか。

第2 その他

特になし。

次回 11月7日(水) 10:00から 中央図書館会議室